

## 日加共同成果発表

スティーブン・ハーパー首相は、日本政府の招待により、3月24日から26日まで日本を訪問した。3月25日、野田佳彦内閣総理大臣は、ハーパー首相と会談し、日加関係の力強さと活発さを確認した。日本側は、東日本大震災とそれに続く津波発生後のカナダの緊密な協力に感謝を表明した。カナダ側は、アジア太平洋地域における平和、繁栄及び民主主義の促進のための日本の指導力に深甚なる謝意を表明した。両首脳は、経済連携、安全保障協力及び人的交流における二国間の取組を継続していくことを約束した。

首脳会談及び昼食会において、野田総理とハーパー首相は、世界及びアジア太平洋地域が直面している広範な問題について意見交換するとともに、今日のグローバルな課題に取り組むために日加間の協力を拡大する必要性を強調した。両首脳は、意見の一致を見て、以下を含む一連の重要な進展、共通の指標及び共有した意図を発表した。

1. 2012年3月7日の日加経済連携協定(EPA)の可能性に関する共同研究報告書の発表及び包括的で高いレベルのEPAの交渉を開始するための十分な共通基盤を見いだしたとする同報告書の前向きな結論を受け、両首脳は、両国の実質的な経済的利益に道を開く二国間EPAの交渉を開始することで一致した。

2. 両首脳は、カナダのエネルギー・鉱物資源セクターへの日本企業の投資とビジネスの関心の増大を歓迎し、市場メカニズムを通じてこれらの資源の安定供給を確保するために二国間貿易及び投資を更に拡大する大きな可能性があることを強調した。両首脳は、天然ガスの貿易に関する協力を含む両国の民間セクター間の協力を促進するための努力を加速すること及びこれら分野の研究・技術の協力を継続することの重要性を認識した。

3. 二国間の平和・安全保障協力を強化するために、両国は、2012年に日加物品役務相互提供協定(ACSA)または相互後方支援協定の交渉を促進することへのコミットメントを確認した。

4. 両国は、人道支援及び災害救援活動支援のための標準運用手続に関する日本政府とカナダ政府との間の協力覚書の改定についての進捗を確認した。両首脳は、カナダ政府による人道支援及び災害救援活動支援のため代替空港として名古屋飛行場を指定することを決定した。

5. カナダは、7月に東京でアフガニスタンに関する閣僚級会合を主催すると日本のイニシアティブを歓迎した。両国は、アフガニスタンをより良く統治され、より安定しかつ安全で二度

とテロリストの温床とならない自立した国に再建するために有意義な貢献を行うとのコミットメントを再確認した。

6. タンザニアにおける民軍協力オペレーターコースへの最近の日本人及びカナダ人の講師の共同派遣に基づき、両国はアフリカにおける平和維持にかかる能力強化への貢献の継続を意図する。

7. 両国は、被災地からの学生に対するカナダへの留学支援を継続するためのカナダによる「カナダ留学ホープ・プロジェクト」の延長及び日本における復興努力についての理解促進及び情報提供のための日本によるカナダとの青少年交流プロジェクト(キズナ強化プロジェクト)を含む東日本大震災を受けた学生交流計画の進捗を強調した。

8. 両首脳は、両政府によるワーキング・ホリデー取決めを更新させる意図を歓迎した。

9. 両首脳は、昨年25周年を迎えた日加科学技術協力協定の下で、最近のカナダ保健研究機関(CIHR)と科学技術振興機構(JST)との間での幹細胞・再生医学分野に関する覚書及び科学技術振興機構(JST)とカナダ自然科学・工学研究機構(NSERC)との間での再生可能エネルギー及びエネルギー利用に関する覚書の署名、並びに、幹細胞及びナノテクノロジーの分野に関する研究可能分野を議論するために2011年に開催されたワークショップを含む重要な業績を認識した。両首脳は、第12回日加科学技術協力合同委員会への機運を維持する願望を共有した。

10. 近く、宇宙協力の促進に関する覚書が署名されることを認識し、両首脳は、宇宙の平和的利用における協力を進める意図を確認した。

11. 両首脳は、カナダ運輸省航空局と日本国国土交通省航空局との間の航空安全促進のための相互協力の強化のための議論を開始することを発表した。

12. 両国は、二国間の商業的関係を強化するために、大阪商工会議所内にカナダが事務所を開設したことを賞賛した。